

生活科で環境教育をどう実践するか

—1 学年単元「あきとあそぼう」を通して—

目 次

I 設定理由	23
II 研究仮説	23
III 研究内容	
1 環境教育の目的と考え方	24
2 小学校における環境教育の基本的な考え方	24
3 生活科と環境教育のかかわり	25
4 本校における環境教育と本テーマとの関連	26
5 研究仮説と単元について	27
IV 年間計画表 (A・一覽)	
V 授業実践例	
1 単元名	29
2 単元について	29
3 単元の目標	30
4 環境教育上の視点	30
5 単元の構成	31
6 指導計画と評価計画	32
7 本時の学習	34
VI 資料	
1 評価カード	38
2 児童の記録 (自己評価カード)	39
3 児童の記録 (大発見カード)	40
4 ぐるりさんぼみちマップ	41
5 アンケート (実態調査) のまとめ	43
VII 研究のまとめ	44

浦添市立浦添小学校教諭
宇 根 教 子

生活科で環境教育をどう実践するか

— 1 学年単元「あきとあそぼう」を通して —

浦添市立浦添小学校 宇根 教子

I 研究テーマ設定の理由

地球温暖化、熱帯林の減少、海洋汚染、都市・生活型公害等、地球規模の環境破壊の悪化に伴って、家庭教育・学校教育の場での環境教育の重要性が取りざたされている。

1972年、国連人間環境会議の行動計画においては環境教育の目的が提示された。日本においては、今年度文部省から出された環境教育指導資料（小学校編）の中で、学校教育での環境教育の意義や役割・内容について触れ、環境教育の基本的な考え方としても次のように明確にした。

「(1)環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全に参加する態度および環境問題解決のための能力を育成することにあると考えられるので、環境教育は家庭・学校・地域それぞれにおいて行われなければならない。」また、第2章小学校における環境教育の章では、各教科・領域での環境教育の実践を重視している。そこでは、生活科が環境教育に果たす役割や生活科と環境教育のかかわりについて、具体的にあげられている。

さて、私の勤める小学校では、環境教育モデル校としての研究に取り組んで2年目を迎えた。21世紀を担う子ども達に社会・自然・地球を託すべく「小さな自然にも大きな関心を持ち、よりよい環境づくりのために進んで行動する子どもの育成」のテーマを掲げ、「自然のしくみ」・「自然保護」・「環境保全」の3つの領域でのカリキュラム作成をし、授業実践を行ってきた。各教科・領域の年間指導計画に組み込むことにしたものの、各教科の目標と環境教育の目標を絡ませる中で、壁にぶつかることが何度もあった。一年次の成果として、本校独自の素材の開発とカリキュラムの作成・授業実践などがあるが、課題も多い。それは、

- 1 生活科と環境教育のかかわりのとらえ方
- 2 環境教育上の視点を踏まえた生活科の指導と評価の仕方

である。環境教育の教科・領域での位置づけをどうとらえていいかわからないこと、環境教育の学習展開のあり方の迷い、環境教育の目標・内容が明確でなかったこと、生活科の目標・内容の理解がまだ不十分であったことなどが要因であったと考える。

2年次の今年、先に述べた環境教育の3つの領域において、低・中・高のそれぞれの目標をおいた。そのことと、環境教育指導資料ができたことは、上あげた2つの課題を解決するための方向を示してくれた。本テーマは、3領域の中の（自然保護—身近な自然に接し、親しむことができる子）の育成につなげるために、また、これまでの実践からつかんだ2つの課題を解決するために、設定した。

II 研究仮説

生活科の学習活動の中で、環境教育上の視点から、素材・教材・授業計画・展開の研究と工夫をすることによって、身近な自然に接し、親しむことのできる子が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

環境教育を生活科の中ですすめるには、生活科の学習のねらいを達成することにより環境教育のねらいが達成されるということではなければならない。もちろん、内容もしっかりである。

では、生活科の内容に環境教育を組み込むことができるのか。……生活科の設置された背景をみると、環境教育との関係は密接であると思える。そこで、生活科の学習の中でどのように環境教育を行えばよいのか、生活科と環境教育がどのようにかかわり合っているのかを具体的に捉える必要があると考えた。その際、「環境教育指導資料 小学校編」「生活科学習指導書」（平成4年 文部省出版）と「学校の中での環境教育」の中から抜粋し、次のように整理してみた。

1 環境教育の目的と考え方 (1972年 国連人間環境会議による)

〔目的〕 環境教育の目的は、自己を取り巻く環境を自分のできる範囲内で管理 (manage) し、規制 (control) したりする行動力を一歩ずつ確実にすることのできる人間を育成することである。



〔考え方〕 (2) (3) (4) (5) は省略

(1) 環境教育の目的は、環境教育に関心をもち環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育成することにあると考えられるので、環境教育は家庭、学校、地域それぞれにおいて行われなければならない。

2 小学校における環境教育の基本的な考え方

〔環境教育が必要とされる理由〕

環境問題解決のためには多面的な対応が必要であるが環境問題の多くは人間の手によってもたらされたものでありその解決のためには環境に対する豊かな感受性や見識をもって行動できる人間の育成を図ることが重要である。



〔小学校におけるねらい〕

- ①豊かな感受性を育成すること
- ②活動や体験を重視すること
- ③身近な問題を重視すること

3 生活科と環境教育のかかわり

〔学習指導要領：環境教育指導資料「第2章小学校における環境教育」より〕

心豊かに、主体的、創造的に生きることができる資質や能力を養うことの重視

(自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの能力を学力の基本とする学力観)

〔生活科の教科目標〕

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともにその過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

※生活科内容(1)～(6)省略

〔環境教育で身に付けたい能力と態度〕

- ① 環境に対して積極的にかかわったり環境を思いやったり、よりよくしようとする関心・意欲、態度など。
- ② 環境とかかわり、それについて考えたり判断したりする思考力や判断力及び表現力など。
- ③ 環境にかかわって課題を見つけたり解決したり、創造したりするために必要な知識・理解や技能など。

〔生活科の目標と環境教育の関連〕

- (1) 具体的な活動や体験をすること……………環境教育は行動を伴う教育であり、活動体験を通す。
- (2) 自分と身近な社会や自然とのかかわり……………環境教育で扱う環境は身近な社会や自然に関心を持つことである。
- (3) 自分自身や自分の生活について考え……………環境を大事にしようとする自分について考える。
- (4) 生活上必要な習慣や技能を身に付け……………環境を大事にするための行動ができること

〔生活科が環境教育に果たす役割〕

- ・体ごと環境に触れ合うこと
- ・環境へのかかわり方を学ぶこと

【生活科の学習内容と環境教育とのかかわり】

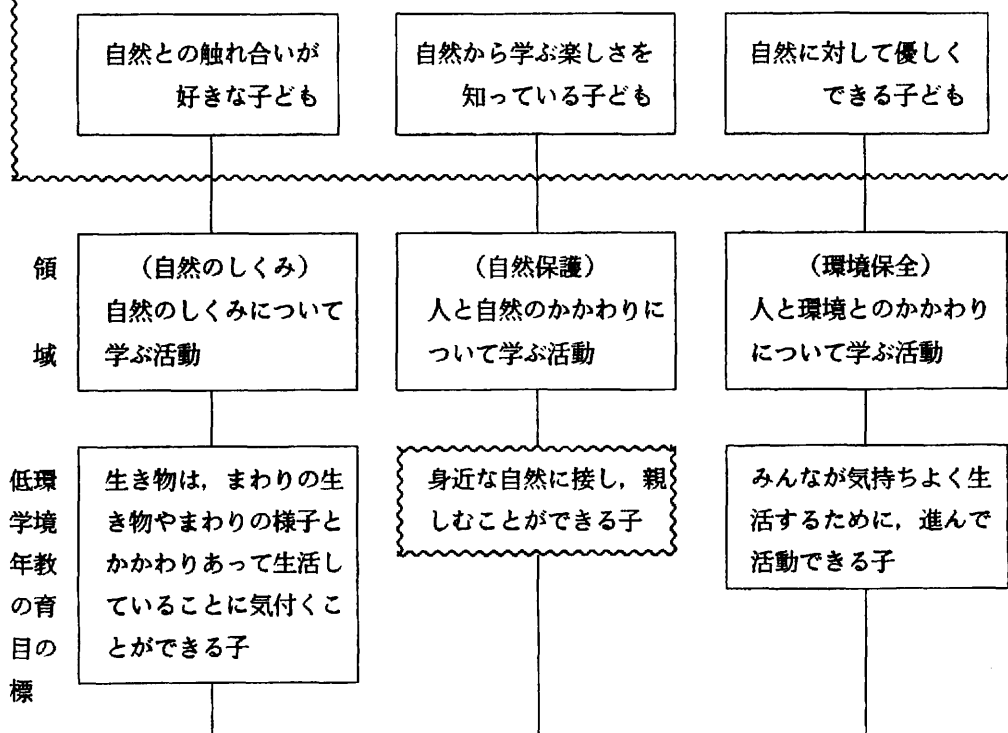
- ア 身近な環境に触れ合い，ありのままに捉える。（関心）
- イ 自分の夢や願いをかなえるために環境に働きかける。（意欲・態度）
- ウ 環境と自分とのかかわりについて考え表現する。（思考・表現）
- エ 活動を通して環境についての認識を深める。（気付き）

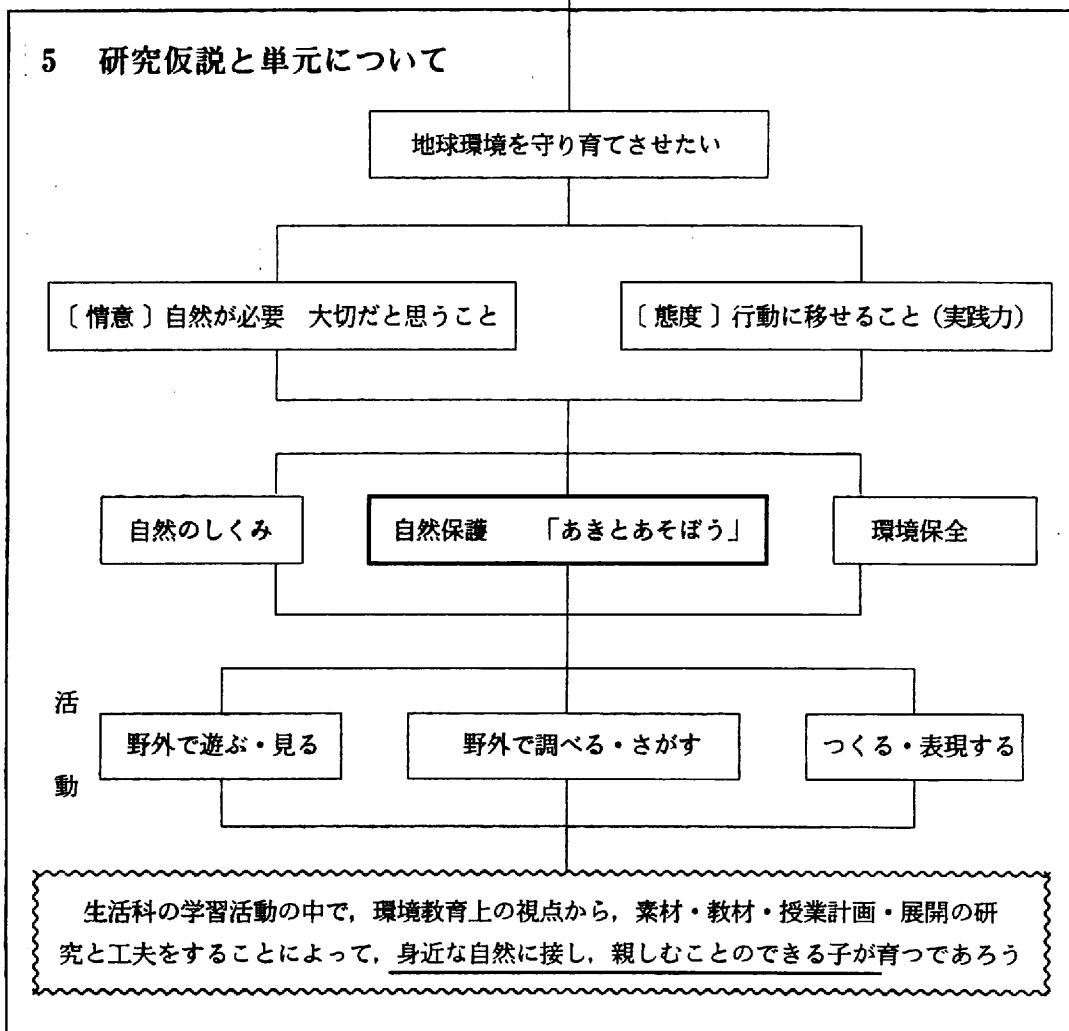
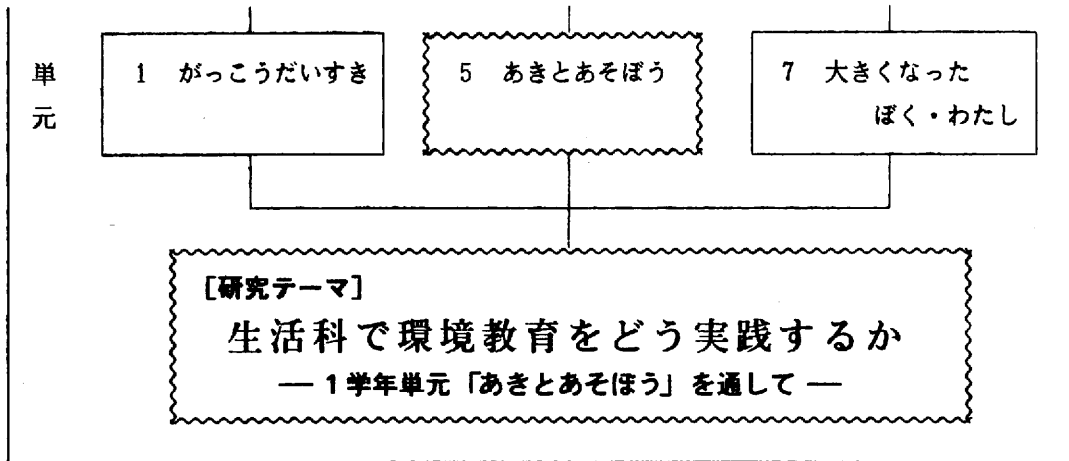
4 本校における環境教育と本テーマとの関連

【本校環境教育の研究主題】

小さな自然にも大きな関心を持ち，よりよい環境づくりのために進んで行動する子どもの育成

【環境教育でめざす子ども像】





Ⅳ 年間計画表 A

内 容		第 1 学 年 年 間 計 画 一 覧 表 A (生活科・環境教育 総時数 102時間)																
		4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月						
(1)	1 がっこうだいす																	
(3)	き																	
(5)																		
(1)	1	◎自然のしくみ																
(3)	2																	
(5)	4																	
(2)	3																	
(6)	4																	
(3)	5	◎自然保護																
(4)	6																	
(6)	7	◎環境保全																
	◎ゆうどれ集会 (生3+特3)																	
	◎しゅうかくさい (発表会)																	

V 授業実践

第1学年 生活科学習指導案

平成4年11月17日(火)第3・4校時
浦添小学校1年3組教室・浦添城跡
男子17名 女子15名 合計32名
授業者 宇根教子

1 単元名 「あきとあそぼう」

2 単元について

窓の外、遠くに見える景色が変わった。白く光るススキの穂が風にゆれる。紅葉のはでさはないが、十分に秋の到来を伝えてくれる。小さいながらも足元のチガヤも負けじと白く小さな穂をなびかせ、秋の雰囲気醸し出すのに効果的な役割を果たしている。

「朝窓を開けると外が冷たいよ。」「先生、雲が細くなっているよ。」秋という言葉は知らずとも何らかの形で季節の変化を感じている児童もいる。季節の変化に乏しいと言われている沖縄でも、目を向ければいろいろな秋の様子を見ることができる。

さて、入学してから校内や校区内の自然とかかわりながら過ごしてきた一年生の児童に、秋の自然の中での活動を多く経験させ、どっぷりと自然に浸らせたいと考える。

身近な自然との触れ合いの機会を多く持つことで、活動が膨らみ自然の見方が広がり、自然が好きだと感じる。それが土台となって、自然環境に対する豊かな感性が培われ、自然へのかかわり方を学び、身につけていくのだと考える。そこで、

①自然の中で没頭して遊ばせる。

②いろいろな自然の様子に関心をもたせる。

の観点から、本単元を次のように構成した。

(1) あきをみつけよう

一学期から継続して活動している「ぐるりさんぽみちへいこう」で校内の決まった散歩コースの中での小さな自然の変化を見つける。それをきっかけとして、「浦添城跡公園であそぼう」の活動に入る。浦添城跡では、一学期のゆうどれ集会の経験を思い起こさせるとともに、児童の自由意志による活動を中心に進めていく。それを受けて「おちばをあつめよう」では「②いろいろな自然の様子に関心を持たせる」の観点から足元の落葉を素材に取り上げたい。落葉の変化の様子を見ることによって、自然への視点を空間から足元へと広げさせる。それらの経験を基に「(2)あきとあそぼう」の計画をたてさせることで、秋を意識させるとともに、次の活動の目的をもたせたい。

(2) あきとあそぼう

「①自然にどっぷりひたる」の視点をもって、「つくる」「遊ぶ」活動を中心に子供たちの創作活動を広げていきたい。またその過程において、友だちや家族・おじいちゃんなどの身近

な人とのかわり方についても考えさせる機会としたい。

(3) わたしのもりづくり

浦添城跡公園という場所や、木の葉・木の実などの自然物の恩恵を受けて楽しく活動してきた。ここでは、(1)・(2)の活動の中で集めてきた木の実などを育て自然に帰すという活動をしていく。その際、校内の「すこやかな森」を浦添城跡のようにしたいという具体的なねらいを持たせることで、自然に対して優しくかわろうとすることができ、それをきっかけとして、3学期の環境保全領域「大きくなったぼく・わたし」の活動へつなげていきたい。

3 単元目標 (*評価方法)

(1) 関心・意欲・態度

- ① いろいろな自然の様子に関心を持つことができる。 (*観察*大発見カード)
- ② いろいろな秋の様子を見つけることができる。 (*観察*大発見カード)
- ③ いろいろな材料を見つけることができる。 (*集めた材料)
- ④ 楽しく遊ぶことができる。 (*自己評価カード)
- ⑤ 「わたしのもりづくり」の願いを持つことができる。 (*願い)
- ⑥ 友だちと協力することができる。 (*観察*自己評価カード)
- ⑦ 安全に気をつけることができる。 (*観察*自己評価カード)
- ⑧ 施設を大切に利用することができる。 (*観察)
- ⑨ 用具を大切にすることができる。 (*観察)

(2) 思考・表現

- ① 落葉の変化についてなぜだろうと思えることができる。 (*観察*落葉*発表)
- ② 作る物の計画をたてることができる。 (*計画表*発表)
- ③ 遊ぶ物を工夫して作ることができる。 (*観察*作品)
- ④ 楽しかったことや見つけたこと、考えたことなどを話したり、
絵や文で表したりすることができる。 (*発表*大発見カード)

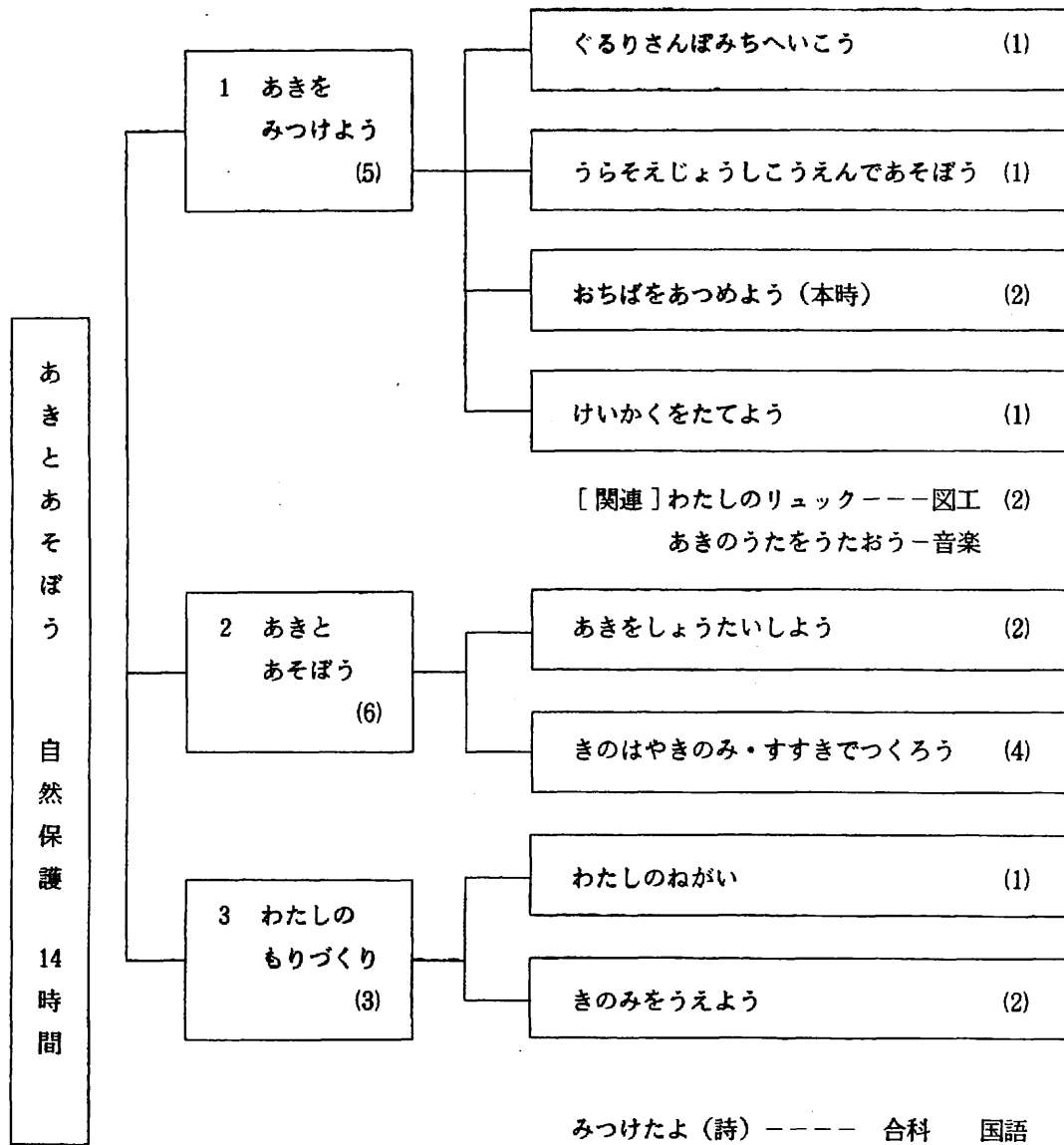
(3) 気付き

- ① 季節の変化に気付くことができる。 (*質問紙*発表)
- ② 落葉の色や形の変化に気付くことができる。 (*質問紙*並べた落葉)
- ③ 季節にあった遊びがあることに気付くことができる。 (*観察*質問紙)
- ④ 木の実の種類と同じで木になることに気付くことができる。 (*質問紙*観察)

4 環境教育上の視点

- (1) 自然の中で遊んだり作ったり、調べたりすることによって、自然との触れ合いを楽しいと感じさせるとともに季節の変化に気付かせたい。
- (2) 落葉の仲間集めをすることによって、落葉がいろいろと変化していくことに気付かせたい。
- (3) 集めてきた木の実をうえ育て、「すこやかな森」を豊かにしたいという態度を育てたい。

5 単元の構成



小単元	活動名	ねらい	活動内容	評価		
				関・意・態	思・表	気付き
一 あきをみつけよう 5	ぐるりさんぽみち (1)	○散歩しながら、五感を使って夏の頃の様子との違いを見つけることで、季節の変化に気付くことができる。 (秋を見つけることができる。)	1 ぐるりさんぽみちを散歩する。 ・夏の頃の様子と違っているところを見つける。 (植物・虫・風など) 2 見つけたことや感じたことをかいたり、発表したりする。 (秋見つけカードや大発見を利用する)	①② *大発見 *つぶやき観察	④ *大発見	①*大発見
	浦添城跡公園で (1)	○浦添城跡公園で五感を使って秋を見つけることができる。	1 浦添城跡公園へ行く。 ・すすきがあるね ・タチアワユキセンダン グサがおおいね 2 公園内を散歩しながら秋をさがす。 3 「色さがし」をする。 「音いくつ」をする。 4 見つけた秋を紹介する	⑦⑧ *観察 ②④ *発表 つぶやき	④*発表	①*大発見
	おちばあつめをしよう (2)	○友だちと協力して自然の中で遊んだり自然の様子を調べたりすることによって、季節の変化に気付いたり、楽しいと感じたりすると共に、自然とのかかわり方がわかる。	1 浦添城跡公園に行く。 2 秋をさがす。 3 落葉集めをする。 (1)落葉で遊ぶ。 (2)仲間集めをする。 (3)落葉並べをする。 4 なぜ、3の(3)の順序になるのかを考え話し合う 5 落葉の下の虫さがしをする。 6 教室に戻る。 7 カードにかく。	②*観察 *大発見 ①*観察 ④*自己 ⑥*観自 ⑦*自己 ⑧*自己	①*発表 ④*発表 *大発見	①*発表 ②*集めた落葉 *並べた落葉 *質問紙

あきをみつけよう 5	けいかくをたてよう (1)	○「二あきとあそぼう」の活動で、何を作るか、何が必要なかを考えることで、目的を持つことができる。	1 これまでに見つけた秋を出し合いながら、本時の活動のねらいを知る。 2 見つけた物でどんな物が作れそうか話し合う。 3 自分が作りたい物とその材料について考える。 4 自分の計画を絵や文にかく。	⑥*観察 *自己評価	②*計画表 ④*発表	②*並べた落葉 *質問紙
二 あきとあそぼう	あしきよをしようた (2)い	○安全に気をつけながら、友だちと仲良く遊ぶと共に遊ぶ物や使う物の素材をみつけることができる。	1 先生と安全や活動の約束について話し合いをした後城跡へ行く。 2 仲良く遊びながら、材料をさがす。 3 見つけた材料のことや楽しかったこと、見つけたことなどを絵や文にかく。	⑥*観察 *自評 ⑦*観察 *自評 ③*材料 ⑧*観察	④*発表	
6	で木つくはろやう木の (4)み	○集めた木の葉や木の実・すすきなどを使って、作りたい物を工夫して作ることができる。	1 自分がたてた計画に沿って、作りたい物を作る。 2 作った物を紹介しあう。 3 作った物を使って友だちと仲良く遊ぶ。	⑥⑦*観察 *自評 ⑨*観察	③*作品	②*質問紙 *観察
三 わたしのもりをつくらう	わたしのねがい (1)	○「すこやかな森」を豊かにしようという気持ちを持つことができる。	1 これまでに集めてきた木の実をどうするか考える。 2 自分の考えを発表する。 3 どんな森にしたいか・どんなふう育てたいか等の願いを書く。	⑤*願い	④*発表 *大発見	④*質問紙 *観察

わたしのもりをつくらう 2	木 の み を う え よ う (1)	○願いを込めて木の 実を植えることが できる。	1 木の実の植え方につい てみんなで話し合う。 2 「わたしの森」づくり をする。 3 植えた時どんなことを 思っていたのか話したり 絵や文にかいたりする。	⑤*願い ⑦*観察 *自評 ⑨*観察	④*大発 見	
------------------	---	-------------------------------	--	-----------------------------	-----------	--

7 本時の学習

- 1) 本時の学習名 「おちばをあつめよう」 $\frac{34}{14}$ 時間
- 2) 本時の目標
 - (1) 関心・意欲・態度
 - ① いろいろな自然の様子に関心をもつことができる。
 - ② いろいろな秋の様子を見つけることができる。
 - ④ 楽しく遊ぶことができる。
 - ⑥ 友だちと協力できる。
 - ⑦ 安全に気をつけることができる。
 - ⑧ 施設を大切に利用することができる。
 - (2) 思考・表現
 - ① 落葉の変化について不思議に思い、解決しようとすることができる。
 - ④ 楽しかったことや見つけたことを話したり、絵や文で表したりできる。
 - (3) 気付き
 - ◎① 季節の変化に気付くことができる。
 - ◎② 落葉の色や形の変化に気付くことができる。
- 3) 本時の授業仮説
 - (1) 友だちと協力しながら自然の中で遊んだり、自然の様子を調べたりすることにより、季節の変化に気付くと共に、自然の中での活動が楽しいと感じ、自然へのかかわり方がわかるようになるであろう。
 - (2) 落葉の変化を見つけることで、自然活動の視点を広げると共に、いろいろな自然の様子に関心を持つであろう。
- 4) 準備

(教師) ・木の葉の見本・ストップウォッチ・ベル・袋・テープ・トイレットペーパー
・救急箱・評価カード・大発見カード・マジック

6) 実践を終えて

(1) 授業者の反省

- ・ 落葉の虫の存在についての活動ができなかったのが心残りである。導入を落葉集めなどの児童の活動から始めるようにしたい。
- ・ ネイチャーゲームとして取り扱いたかったが、その条件やルールについて、教師自身自信がなかったため、思うように進めることができなかった。
- ・ 環境教育を意識しすぎて、生活科の授業の内容として適当であるかどうか気になる。

(2) 感想・意見

- ・ 話をよく聞き、生き生きと活動して言葉にもいいものがでていた。
- ・ 場所の選定が適当であった。
- ・ 落葉の比較をした後その理由がわかるので、虫の場面もあった方がよい。
- ・ 目的をもっとはっきりつかませたい。

(3) 指導助言

- ・ 新しい分野の資料や準備が行き届き、場所の選定や計画の細かい点も評価される。
- ・ 公共物や身近な自然に触れることができた。
- ・ 他教科との合科は大切であるのでこれからも続けてほしい。
- ・ 問題解決学習になっている。
- ・ 教師の説明が長いので児童の活動時間をもっと多くしたい。
- ・ 「落葉を片付けよう」ではなく、「どうする」と児童に投げかけて考えさせたい。
- ・ ゲームは設定をきちんとすることで成り立つ。

[授業風景]



Ⅵ 資料

1 評価カード

五 あきとあそぼう ③④/14時間 おちばをあつめよう (自然保護)						浦添小学校 1年3くみ 男子 女子					
出席 番号	児 童 名	関・意・態				思・表		気づき			
		① 楽し	⑥ 協力	⑦ 安全		① 話す	② 解決	仲間	順序		
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
メモ											

資料2 児童の記録 (自己評価: にここカード)

11月17日かよう日(てんき) 1年3月14日ばん とらさとるが	
1 たのしかつた	2 ともだちと きょうりょく できた
3 おんせんに きをつけた	4 先生やとも だちのはなし をきいた
5 はっぴょう をした	

わたしは、グループとお
 おはなきをみつけま
 した。



11月17日かよう日(てんき) 1年3月1日ばん みばさとるが	
1 たのしかつた	2 おばさん たくつめ きた
3 なかまあつめ きた	4 じよんじょと ながてきた
5 おばの下の おしをみつ けた	6 さいしに きた

ほめてあげたい
 おともだちは
 だれですか。

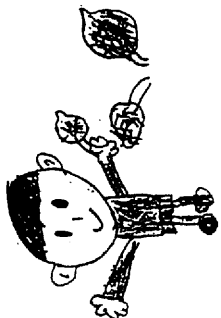
せんじん

資料3 児童の記録 (大発見カード)

11月17日

<p>おちあ したあ あ あ</p>  <p>いんあはあ</p> 	<p>なまえ又アホのー子</p> <p>ていの様のーイんか様</p> <p>おのトじいおのーああ</p> <p>がらのお見やました。あ</p> <p>見るん。ーああがら。ああ</p> <p>ました。ああのーああ</p> <p>いるかああああ。</p> <p>ていああああ。ああ</p> <p>ああああああああ</p> <p>にあああああああ</p> <p>ああ。ああああ。</p>
---	--

11月17日

<p>いんあはあ</p> 	<p>なまえあああ</p> <p>ああああああ</p> <p>いんあはあ</p> <p>ああああああ</p> <p>ああ</p> <p>ああああああ</p> <p>ああ</p> <p>ああああああ</p> <p>ああああああ</p> <p>ああああああ</p> <p>ああああああ</p>
--	--

資料5 アンケートのまとめ 一部省略 単位・名

調査対象：浦添小学校1年生 91名 ・ 調査期日：平成4年11月10日

(1) なつとくらべて、このごろ、かわってきたことはどんなことですか。	

・ススキがめだってきた	22
・寒くなってきた	27
・木の葉の色が変わった	17
・風が強くなった	15
・セミがいない	13

(3) おうちでどんなことをしてあそびますか	

・外でかくれんぼ	36
・家でファミコン	27
・家でTV	11
・公園	8

(5) あきとあそびたいことはなんですか。	

・葉っぱでつくる	23
・どんぐりごま作り	15
・風と遊ぶ	10

(4) 木のはや木のみであそんだことはありますか。	

・ある	55
・ない	36

(4)・② 木のはや木のみでなにをつくりましたか	

・いろいろな形をつかった	35
・木のはでお面	20
・どんぐりごま・やじろべえ	15
・じゅず玉の首飾り	5
・その他	

(6) こうえんであそんだことはありますか。	

・ある	91
・ない	0

(9) こうえんではどんなことをしてあそんでいますか。	

・ブランコ	42
・すべりだい	36
・鉄ぼう	24
・おにごっこ	9
・木の葉や木の実であそぶ	0

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- ・ 児童の自己評価や感想から、「自然との触れ合いを楽しいと思う」という第一の目的が達成されたことが確かめられた。
- ・ 児童に自分を振り返らせる方法として、具体的な自己評価カードを用いたことは良かった。
- ・ 素材の視点が広がったことは良かった。

2 課題

- (1) 児童の実態把握の方法とそれに基づく授業計画
- (2) 児童活動を中心とした展開の工夫
- (3) より効果的な評価方法の継続研究
- (4) 父母や地域との連携を含めた環境教育の実態

「生活科で環境教育をどう実践するか」のテーマで研究を進めてきたが、成果と課題が上記のように挙げられる。それは、私の研究がこれで終わりではなく、これからも続くことを示したものであり、その内容をより具体的に示したものである。また、これまで研究してきた生活科と環境教育のかかわり・評価方法・四季を通したマップ作り等についても継続して考え、さらに、よりよい実践を目指していきたい。

※おわりに

この研究の過程において、自分自身が少しは視野を広げ成長することができたと、ずうずうしくも自負している。それを児童との実践に生かせることを祈りつつ、未熟者のとても小さな研究を温かく見守り支えて下さった教科指導員の与儀啓子先生をはじめとする皆様方に心から感謝申し上げます。

※主な参考・引用文献

- ・ 小学校指導書（生活編）
- ・ 環境教育指導資料（小学校編）平成4年3月 文部省
- ・ 学校の中での環境教育 1992年 8月25日発行（沼田 眞 監修）
- ・ 子どもに楽しむ環境教育ガイド 総合教育技術10月号増刊 平成4年10月5日（小学館）
- ・ 環境教育のあり方とその実態 昭和58年4月30日（国立教育研究所内環境教育実践研究会）